

北海道科学大学YOSAKOIソーラン部「北海道科学大学～相羅～」が、 第34回YOSAKOIソーラン祭りにおいて ファイナル審査優秀賞を受賞しました

YOSAKOIソーラン部「北海道科学大学～相羅～」が、2025年6月4日(水)～6月8日(日)に行われた第34回YOSAKOIソーラン祭りにおいてファイナル審査優秀賞を受賞しました。

今年で19回目の出場となる相羅は、2025年度演舞テーマ「暁(あかつき)」で演舞を披露し、3年ぶりにファイナルステージに進出しました。

下の二次元コードを読み込めば、本学HPの記事から相羅の演舞を視聴できますので、是非ご覧ください。



続きは
こちらをご覧ください



学校法人北海道科学大学「とことん、ひらこう。」寄付金ご協力をお願い

はじめに、法人創立100周年記念事業寄付金につきまして、2025年3月31日をもちまして募集を終了いたしました。事業報告としまして、累計1,414件、201,455,000円の寄付を賜っております。皆様からのご厚志に心より感謝申し上げます。

さて、2025年4月からは新たに、新ブランドビジョン「とことん、ひらこう。」を冠した、学校法人北海道科学大学「とことん、ひらこう。」寄付金の募集を立ち上げ、就学支援、自主活動支援、国際交流支援、地域共創支援、カーボンニュートラル推進支援の5つの事業について募集いたします。

また、1回の寄付で3万円以上をご寄付いただいた個人の方には、返礼品(卒業生企業、連携自治体、共同研究先の商品)もご用意しております。

つきましては、諸事ご多端の折、誠に恐縮ですが、寄付の趣旨にご賛同いただき、卒業生、保護者、地域社会の皆様からのご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

応募期間

2025年4月1日から
随時、募集

応募の対象

- 1口……………5,000円
 - 個人……………1口以上
 - 法人……………10口以上
- ※金額の多寡にかかわらず有難くお受けいたします。

寄付の詳細につきましては、本法人の寄付金サイトにてご確認ください。

寄付金サイト > <https://ed.hus.ac.jp/donation/>

こちらからも
ご確認ください



北海道科学大学 HUS NEWS LETTER 2025年8月7日(第224号)



北海道科学大学

〒006-8585 北海道札幌市手稲区前田7条15丁目4-1
TEL: 011-681-2161(代表) FAX: 011-688-7639(代表)
HP: <https://www.hus.ac.jp/>

+Professional

ヒューマニティ、コミュニケーション力、課題発見解決力、自己実現力
といった基盤能力を基に、専門性を身につけた人材を育成します。
すべての設置校に共通する、わたしたちのスローガンです。

法入北海道科学大学
北海道科学大学高等学校
北海道自動車学校

HUS NEWS LETTER

Vol.47 / Hokkaido University of Science

特集1 | デジタル装具手帳アプリ開発

特集2 | 地域連携プロジェクト
伊達市PRポスター制作プロジェクト

05 | 学生の活躍

09 | 卒業生訪問

07 | 研究室から

10 | HUS調査隊

北海道科学大学 HUS NEWS LETTER 2025年8月7日(第224号)



教員と卒業生が 装具のある暮らしを
開発！

快適にするスマホアプリ

脳卒中などのリハビリでは、麻痺した手足を支える装具が必須です。

有限会社テックワークスと北科大では、

その装具に関わるアプリ「デジタル装具手帳」を共同開発。

開発に携わった3人に話を聞きました。

「デジタル装具手帳」はどのような背景から
生まれたアプリなのでしょう？

春名 脳卒中などのリハビリに欠かせない装具は購入して終わりではなく、使っていくうちに身体に合わなくなるため調整やメンテナンスが必要ですが、その体制があまり整っていないんです。
佐藤 私が義肢装具士として働いた道東でも町と町が離れていて、1日に対応できる件数が限られていました。対応が追いつかないだけでなく、お金になりにくいことから、装具会社の中にはフォローアップに消極的なところもあります。

春名 そのため、日本には装具の不具合を放置せざるを得ない装具難民問題（装具支援格差の問題）が課題となっています。そのような状況を、ICT（情報通信技術）によってどうにか変えられないかと兼ねてから考えていて、当時学生だった弓野さんに話したところ、彼女自信がアルバイト

先のIT企業、有限会社テックワークスの社長を紹介してくれたことで開発がスタートしました。

開発はどのように進められたのでしょうか？

弓野 最初は装具難民が抱えている課題と解決法を卒業論文として発表することから始めました。装具のフォローアップにはどのような課題があるのかを実際の利用者にインタビューをしたりして洗い出し、アプリを開発することで社会にどのような変化が起きるのかを論文にまとめました。

具体的にはどのような課題があり、
どのような機能に落とし込まれたのでしょうか？

春名 装具にもお薬手帳のような手帳があるのですが、なかなか普及せず、どこに収納したか分からないという声も少なくありませんでした。ま



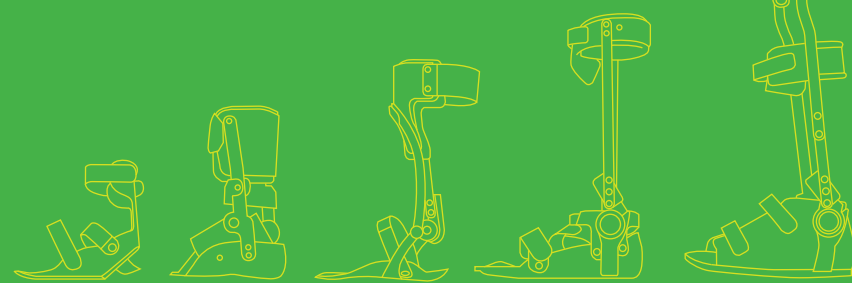
保健医療学部
理学療法学科
春名 弘一教授



保健医療学部
義肢装具学科
佐藤 健斗助教



有限会社テックワークス
クリエイティブ・ディレクター
弓野 詩苑さん



ずは装具をいつ、どこで作ったのかなどの情報がひと目で分かる“装具手帳機能”を整備しました。

開発で特に注力された点を教えてください。

春名 人は急激な変化はすぐ気づきますが、ゆっくり変わるものにはなかなか気づきません。装具もゆっくりと合わなくなるものなので、その変化に自分で気づけるような仕掛けや機能実装に力を入れました。中でもスマホで撮影した動画からAIを使って歩き方を検知する歩行チェック機能は、このアプリの画期的なストロングポイントだと思います。私と佐藤先生の今までの研究で、装具が合わなくなってくると歩き方にどのような変化が出るかが分かっていたので、そのデータを活用して、撮影した動画から変化に気づけるようになっています。

弓野 動画からの歩行チェックはカメラ位置や歩き方、さらには服装にも気を配って実証実験を重ね、装具を隠すよう大きめの衣類を身につけていても骨格を割り出して測定できるようになっています。

春名 医師や装具の専門家が一目で分かるよう

にするにはどうしたらよいかも意識しました。
弓野 入院患者であれば状況をこまめに確認できますが、外来だと医師の前で頑張って上手く歩こうとしたり、普段の動きとは違う動きをすることがあって、不具合に気づけないこともあるそうなんです。そうしたことも日々の歩行動画を撮影することで解消することが出来ます。また、利用者本人だけでなく、ご家族が撮影する場合もあると思いますので、装具の知識が無い人にも分かりやすく使いやすいように設計しました。
佐藤 義肢装具士の視点から装具について学べるコンテンツも取り入れてもらいました。装具への理解があると、単純に壊れたと伝えるだけでなく、どこがおかしいかを的確にやりとりすることが出来ます。このアプリによって、より効率的なフォローアップが可能になることを期待しています。

現状のアプリの満足度、
今後の目標について教えてください。

弓野 私たちの目標はアプリを広めることなく、“装具難民”の問題を解消することなので、アプリができただけではまだまだ不十分です。

春名 このアプリには4つの大きな機能があり、現在はまだ3つしか公開していません。次に目指しているのは、利用者と装具会社をつなぐ予約機能です。

弓野 現在はiOS版のみの提供ですが、今後はAndroid版のリリースも予定しています。より多くの方々に本アプリを活用していただけたよう、順次機能を拡充しながら広めていけたらと思っています。

佐藤 これを実装するには全国の装具会社に登録してもらう必要があります。装具会社の情報が集まり、連携も図れるようになると、これまで個別で行っていた管理やメンテナンスも複数の会社で共有して効率的に実施できるようになると思います。

春名 臨床現場にこのアプリが普及し、装具の日々の管理に使用され、病院や装具製作会社とも連携が取れる。そういうアプリに育ってほしいと願っています。

デジタル 装具手帳

装具の情報を管理し、日々の歩行記録状態も手軽にチェックできるiOS専用アプリ。今後はAndroid版にも対応予定で、装具利用者への適切なメンテナンスとフォローアップを提供します。



アプリのインストールは
こちら  からダウンロード



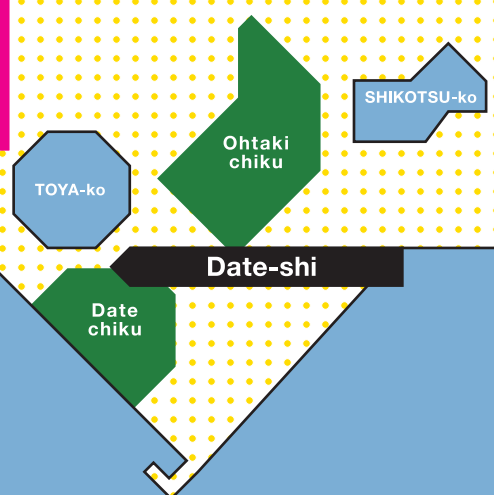
装具を製作した日や病院名・
装具会社名などを管理



撮影した動画から
歩き方や姿勢をAIで分析



ヘルスケアアプリと連携し、
歩幅や距離の変化も分析



伊達市

北海道科学大学
+Professional

地域連携プロジェクト

伊達市PRポスター 制作プロジェクト

本学の学生の自由な視点で
伊達市の魅力を発信！
本州で掲出されるポスターをデザインしました。

本学では2024年4月に地域共育センターを開設し、地域と連携した活動を積極的に行っています。2025年2月に伊達市と包括連携協定を締結し、4月に伊達市から依頼を受け、市のPRポスターを学生が制作し、8月に東京と大阪のモノレール車内に掲出されます。

授業とは別の課外活動として行われたポスター制作には、メディアデザイン学科の3年生5名が有志で参加し、まずはインターネットで情報収集してポスターの草案をそれぞれ制作しました。さらに5月には実際に伊達市を訪れて、現地調査を実施。市の担当者や学芸員から熱心な説明を受けながら「有珠善光寺」「藍染工房」「だて歴史文化ミュージアム」などを1日かけて巡り、伊達市の歴史や文化、美しい風景など、インターネットでは得られない生の情報を吸収しました。

5名の学生が異なる切り口で制作したポスターのうち、最終的に田中くるみさんの作品が選ばれました。伊達市からは「伊達市、のぞいてみる?」という行動を促すようなキャッチコピーや、「伊達メガネ」をモチーフとしたユニークな発想などが高い評価を得たそうです。

伊達市の「外部からの自由な発想と視点で市の魅力を掘り下げてほしい」とスタートした今回のプロジェクトは、本学にとっても実践的な学びの場となり、学生たちの発想力や技術力の成長にもつながりました。ポスター制作は次年度も実施が検討されており、本学でも授業への組み込みも視野に入れて協力していけたらと考えています。包括連携協定の締結をきっかけに今後も地域との連携を強化し、さらなる学びと地域貢献を深めていきます。



畳や柱、天井とか細かいところにも
歴史を感じるね



あちらに広がる海では
サケやスケウダラなどが
獲れて沿岸漁業が盛んです！

初めての藍染体験。
綺麗に染まって良かった！

STUDENT
VOICE

未来デザイン学部
メディアデザイン学科
3年
田中 くるみさん

選んでいただき、本州のモノレールに掲出されることを光栄に思います。制作過程ではどんなに事前に調べても、実際に足を運ばないと分からないことがあると知り、ポスターでは現地の空気感も伝えたくて風景の写真を追加しました。伊達市の魅力を知れて楽しかったですし、プロジェクトを通して地域との関わり大切さも実感できました。

採用デザイン [8月に東京・大阪モノレール車内に掲出]

北海道 伊達市



車内の携帯電話のご利用マナーにご協力ください

だて
伊達市、のぞいてみる?

デザイン：田中くるみ（北海道科学大学）



伊達市 企画財政部 企画課
課長
佐藤 広教さん

去年は地元のデザイン会社に依頼したのですが、今年は北科大の学生の発想に期待し、伊達市に住んでいては気づかない、埋もれている宝物を掘り起こしてほしいとお願いしました。現地調査では興味をもって取材してもらい、特にフロンティア街道の街並みの美しさに興味を持ってくれたのが意外で、うれしかったです。完成したポスターは伊達市の空気や雰囲気を感じさせてくれて、期待以上の仕上がりでした。



未来デザイン学部 メディアデザイン学科
丸山 松彦 准教授

依頼からモノレールでの掲出まで約3カ月というタイトなスケジュールでしたが、この短期間で学生たちは大きく成長できたように感じます。特に現地に行けたことで、写真を選ぶのも実体験があることで説得力が増していました。また、今回は市の担当者や何度もやりとりして完成度を高めましたが、その過程も良い学びでした。技術と人間性の両方を養える貴重な機会であったと感謝しています。



アメリカンフットボール部

American Football

戦術や駆け引きも魅力のアメフト。

みんな未経験で入っている部活なので初めての人も安心して始められます。

ぶつかり合うだけじゃない！
実は頭も使うスポーツなんです。

北科大のアメリカンフットボール部は北海道工業大学からの歴史を受け継ぐ、伝統のある部活です。練習は火・木・土・日の週4回、大学の専用グラウンドで平日は学生のみで行い、週末は社会人のクラブチームに所属するOBが学外コーチとして指導に来てくれています。

私が入部した頃はコロナ禍もあって部員が10数人しかいませんでしたが、今は持ち直して3年生だけで13人もいるくらい人数がそろっています。北海道にはアメフト部のある高校がないので、部員のほとんどが大学からアメフトを始めています。高校時

代は合唱部や写真部などの文化系の部活をしていた人も多くいて、私は高校まで野球部で、アメフト部に入部したのは高校時代の先輩に誘われたのがきっかけでした。スタートラインが一緒なので安心して始められますし、ゼロからスタートになるので誰もが成長を感じることができそうです。

アメフトというラグビーのように体と体をぶつけてボールを奪い合うイメージがあるかもしれませんが、実際には体力だけでなく、頭もすごく使うスポーツです。1チーム11人でプレーするアメフトは、4回の攻撃で10ヤード進めないと攻撃権が相手チームに移ります。10ヤードを一気に獲得するためにロングパスを投げたり、少しずつ走ってヤード数を刻んだり、1つ1つのプレーに戦術やフォーメーションが決まっています。オフェンスとディフェンスそれぞ

持ち前のチーム力を発揮して
目指すは一部リーグ昇格！

北科大アメフト部には“WOLVES”というチーム名があり、部員はWOLVESネームというあだ名で呼び合うのが伝統になっています。WOLVESネームは入部のタイミングに先輩たちが付けてくれるのですが、その由来はさまざまで、漫画のキャラクターから付けられた「チャオズ」もいれば、歴史的人物の名前が付いた「秀吉」もあります。ちなみに私は入部時にキックボクシングの試合が話題になっていたことから「タケル」と呼ばれています（笑）。一聴するとふざけて聞こえるかもしれませんが、WOLVESネームは上級生と下級生の壁をなくすことに一翼を担ってくれています。

そんな部員同士の仲が良いのもこのチームの特徴で、練習の後にご飯を食べに行くことも結構あります。よく行くのは大学の近くにある「キャロット」というレストランで、このミックスグリルはハンバーグ、豚ヒレ、豚ロース、鶏肉、ウインナー、ベーコンを一度に楽し

れにどんなプレーを選択するかの駆け引きもアメフトの面白いところです。私はワイドレシーバーというクォーターバックの投げるパスを受けるポジションを任されているのですが、自分よりも体の大きな相手ディフェンスを振り切り、フリーの状態でパスを受けて10ヤード以上走り抜かれたときは最高に気持ちがいいです。



めるセットで食べ応えがあります。ぜひアメフト部に入って、一緒に食べに行きましょう。

現在、WOLVESは二部リーグに所属していて、去年はリーグ優勝し一部リーグとの入れ替え戦に挑戦しました。ただ、結果は残念ながら負けてしまい…。今年はその悔しさを糧にさらなる成長を遂げ、リーグ優勝はもちろん、入れ替え戦にも勝ちたいと思っています。そして、来年こそは一部リーグで闘えるよう頑張りたいです。

日本ではまだまだマイナーなアメフトですが、アメリカでは野球よりもメジャーなスポーツです。その年の優勝決定戦である「スーパーボウル」というイベント名は皆さんも聞いたことがあるのではないのでしょうか。そんなアメフトの面白さをもっとたくさんの人に知ってもらえたらうれしいです。いろんなポジションがあって、どんな体格や特性の人でも参加できるスポーツなので、ぜひ一度見学や体験に来てほしいです。



▲2025年 北星学園大学とのオープン戦

工学部
都市環境学科
4年
部長
川島 大和さん

Activity content

肩や頭を保護するプロテクターとヘルメットを装着してプレーします。空きコマの時間を活用して大学のトレーニングルームで筋力トレーニングに励む選手も多くいます。



Data

アメリカンフットボール部

[部 室] 図書館地下
[部 員 数] 29人
[発 足] 1988年



HUS

CAMPUS NEWS

学内ニュース

「楽しい!簡単!
プログラミング教室!」を
青少年科学館で実施しました



詳しくは
こちらをご覧ください



「クラシックカー整備見学会」を
開催しました



詳しくは
こちらをご覧ください



シエスタハコダテで
まちかどキャンパスを
開催しました



詳しくは
こちらをご覧ください





研究室から In the Laboratory

北科大で行われている研究の最前線をクローズアップ！



地域に暮らす高齢者の健康を 身体的な側面と心理的側面の 両方からアプローチ！

健康維持に大切な口腔機能。
口の状態を知ることは
健康を知ることにつながる。

――先生は高齢者を対象とした研究をされていますが、具体的にはどのような研究をされているのでしょうか？

最初は高齢者の「食べる」ことに注目し、摂食嚥下障害で食べることが難しくなった方に看護師としてどのようにアプローチしていくと良いのかを病院と連携して研究してきました。その後、「健康」と「要介護」の間にある「フレイル」という状態を未然に防ぐことが大切で、特に口腔機能が衰えると全

身の健康状態の低下を招くことがわかってきたことから、2015年より近隣地域に暮らす高齢者を中心に口腔機能の状態とそれに伴う影響を調査しています。

――調査はどのように行われているのですか？

私だけの研究ではなく、保健医療学部全体の事業として近隣地域の高齢者に向けた測定会を年2回、本学に行っています。身長・体重、血圧といった一般的な健康状態を測定するほか、専用の器具を使って1秒間に「パ」「タ」「カ」を何回発音することができるかを測ったり、歯科衛生士に協力してもらって口の中の乾燥具合や歯が何本残っているかを調べたりしています。5つの「オーラルフレ

イル」の状態を確認し、2項目に該当すると口腔機能の低下が疑われますので、それらを調べつつ、機能が維持されている方の特徴を分析しています。

身体の健康をつくる栄養と運動。
そこに社会参加が加わることで
高齢者の健康はさらに維持される。

――10年近く測定されてきて、先生の研究は今、
どのような段階を迎えているのでしょうか？

この分野は日進月歩で、「オーラルフレイル」についてもここ数年で一気に研究が進められています。私もアップデートに追いつきながら、調査項目を毎年変えながら、手探り状態で健康から治療対象になる要因を探している段階です。その中で見え始めているのは、やはり栄養と運動です。たくさん的高齢者に出会ってきましたが、全身の運動機能が落ちている人は、それらの値が良くありませんし、一方で80代でも40～50代の体力と運動機能を維持している人は、ご飯をしっかりと食べていて運動習慣が身についています。

――健康には食べることと運動することが大きな影響を与えているんですね？

身体的な要素としてはその2つが大切ですが、健康は個人だけの問題だけに限りません。私自身、大学でコミュニティ心理学を専攻し、地域に暮らす人たちのウェルビーイングについて学んできた経験から、健康状態は地域との関わりや人とのつながりにも大きく左右されるものだと考えています。

コロナ禍以降、介護予防センターと共同で高齢者を対象としたスマートフォン講座をこれまで3回実施したのですが、高齢者の皆さんは学生ボランティアと交流するのを楽しんでいて、学生たちも緊張しながらも自身の学びの機会になっています。そうした社会参加できる場づくりも高齢者の健康に寄与していると感じています。

新たなキャンパスを拠点に
世代を超えた健康を育む
地域コミュニティを目指す。

――今後はどのような研究、取り組みを目指していますか？

現在は健康に寄与する要因を探る段階にとどまっていますが、今後はその知見を基に実際の健康増進プログラムを実施していきたいと考えています。重要なのは、研究者主導ではなく、地域に根付いた持続可能なプログラムとして発展させることです。研究費がなくなったら終わってしまうような取り組みではなく、地域の方々が主体となって継続できる仕組みづくりを目指していきたいと考えています。中でも新たにできる「手稲駅前キャンパス」に期待していて、より多くの地域の方々が集まり、世代間のギャップを埋めながら地域への愛着を深められる拠点になるよう関わりながら、学生も学びを得られる相互利益のある関係を築いていきたいです。理想的には、そうした拠点があることで人々のつながりが生まれ、精神的な健康が向上し、それが身体的な健康にも良い影響を与えることを評価として示せればと思っています。



――学生たちにはどのようなことを期待していますか？

失敗を恐れずにいろんなことにチャレンジしてほしいです。最近は無難な道を選ぶ傾向がありますが、たとえの外れかもしなくても、考えることに意義があります。看護の分野も大きく変化しています。以前は病院内での患者様との一対一の関係が中心でしたが、現在は地域へと広がり、治療だけでなく予防の分野にも展開しています。既存のあり方とは違う新しいアプローチが今後必要になってくるかもしれません。既存の枠にとらわれない自由な発想を持ち続けてほしいです。

保健医療学部 看護学科

大内 潤子 教授



研究室が貢献するSDGs目標

大内先生の研究室では、口腔機能を切り口に高齢者の健康維持を研究し、すべての人の健康を育む持続可能な地域コミュニティの実現を目指しています。

HUS CAMPUS NEWS 学内ニュース

女性ヘルスケア
応援自動販売機のお披露目会を実施しました



詳しくは
こちらをご覧ください



未来デザイン学部で
学科横断型の地域連携
フィールドワークを実施しました



詳しくは
こちらをご覧ください



第16回
高齢者元気サポートを
開催しました



詳しくは
こちらをご覧ください



Graduate Visit

卒業生訪問

先輩の大学時代と ―― これからを聞く



金属技研株式会社
山田 小夏 さん

函館市出身。2018年3月に北海道科学大学工学部機械工学科を卒業後、同大学院工学研究科に進学し機械工学を専攻。2020年3月に修了後、金属技研株式会社に入社。姫路工場技術課で勤務する傍ら、2022年4月より同大学院の博士課程で研究活動を行っている。

金属加工の会社でモノづくりに貢献。
現場作業を経験してきたからこそ、
お客様に最適な提案が可能に。

私が勤務する金属技研は、その名の通り金属材料の熱処理や接合の技術を得意とする会社です。世界最大級の設備を有する工場では、各種メーカーや企業の加工から検査、品質保証までの工程を受託しているほか、新規製品を協力して開発することもあり、依頼される製品の分野は半導体や加速器、熱交換器など多岐にわたります。私は姫路工場の技術課で、金属に熱と圧力を加え、接合や焼結、成形などを行うホットプレスという装置を主に担当しています。入社5年目を迎えた昨年から量産品に加えて新規品の検討業務も任されるようにもなりました。入社4年目まではひたすら現場作業に従事していましたが、そこでたくさんの経験を積んできたおかげで、新しく携わる新規品の検討業務でもお客様に的確な提案ができるようになったと成長を感じています。



就職後も研究をあきらめきれず、
博士課程に進学。
休暇を使って兵庫と北海道を
行き来する充実の生活。

大学院修士課程修了後、大学に残って博士課程に進むか就職するかをすごく悩んだのですが、最終的に就職を選びました。大学で学んだ金属材料に関する知識や経験を生かせる会社を探し、そこで見つけたのが金属技研です。当時の社長が北科大機械工学科の大先輩で、そこにも縁を感じて入社しました。ただ、入社後も博士課程をあきらめきれず、入社3年目に北科大学院の博士課程に進学しました。仕事をこなしつつ、上司や周りの協力を得ながら有給休暇をフル活用して月に1回北海道に帰り、研究に没頭する日々を送っています。

研究テーマはコバルトとニオブからなる「ミルフィーユ材料」の基礎研究です。両立の難しい強さと変形能力を兼ね備えた、新しい夢のある金属材料の創製と、その強化・変形メカニズムの解明に向けて、ドイツのマックス・プランク研究所の方や、東京大学、北海道大学の先生方のご協力を得ながら取り組んでいます。

分からないことを少しずつひも解く。
研究で培ったメンタリティーを
仕事にも活かし、挑戦していきたい。

仕事をしていてうれしい瞬間は、自分が手がけたパーツから製品ができ上がり、お客様から完成品の写真とともに喜びの声や感謝の言葉をいただいた時です。これからも、チャレンジをたくさん重ねて少しずつ自分に

できることを増やし、今後は研究開発や高温・高圧で材料を加工するHIP（熱間等方圧加圧）装置にも携わってみたいと考えています。

仕事の現場で起きるイレギュラーな事態に対処することと、分からないことにぶつかっては少しずつ理解を深めていく大学の研究は似ているかもしれません。研究で培った金属材料の知識はもちろんです、研究を通して出会った様々な人達とのつながりや、困難な状況をも楽しむ「気持ちのあり方」も仕事に活かしていけたらいいなと思っています。

北科大生の 学外での 活動調査

北科大の学生達が学外でどんな活動をしているか、どんなアルバイトをやっているか、気になったので学生記者達が調査してみました！



このページは、学生記者が担当しています。

Pickup!

観光案内所で 地元のPRを

未来デザイン学部 人間社会学科 2年
山田 楓 (やまだ かえで) さん

地方の観光案内所で、ひまわりが見頃を迎える夏に観光案内所で勤務。主な業務内容は観光案内や特産品の販売、写真撮影など。道外や海外からの観光客も多く、得意の英語を活かして外国人観光客を案内することも。地域の魅力を伝えるうちに、「この街って素敵だな」と感じ、地域の伝統や風景を守りたいという思いが芽生えたそうです。この経験がきっかけとなり、現在は人間社会学科でまちづくりを学んでいます。

なかなか経験
できないことですね！

アルバイト

01



02

学外での活動



地域の魅力発信のため、 クラウドファンディング に挑戦！

キマロキ☆ミライ
プロジェクト

未来デザイン学部の有志学生たちが名寄市に展示保存されるSL排雪列車「キマロキ」編成を守り続けるために魅力発信のパンフレットを制作しました！プロジェクトを通して、キマロキ編成が人々の暮らしを守り、今の私たちの暮らしがあるということに心が動かされました。

クラウドファンディング
は目標金額を
大幅に
達成したんですね！

HUS調査隊 メンバー紹介



薬学部
薬学科 2年
森岡 伸悟 (もりおか しんご) さん

クラブ活動はバドミントン部、山岳部、天文部、咖啡倶楽部、菓草研究部に所属しており、天文部では副部長をしています！クラブ活動の他に夢プロジェクトの「い〜らぼ」に所属しており、薬学の知識の探究や化学の楽しさを地域の子供たちに普及する活動を行っています！趣味は音楽、漫画を読むこと、アニメや映画鑑賞、ゲーム、運動することなど多趣味です！学内外に潜む様々な大学の秘密を取材していきたいと思っています。



趣味は野球、ゲーム、動画視聴です。最近はいなズマイレブンとHIMEHINAを特に観ています！部活には所属していませんが、大学2年生のころから学外のチームで草野球をしています。この活動を通じて取材の楽しさをひしひしと感じています！！

未来デザイン学部
メディアデザイン学科 4年
土屋 光 (つちや ひかる) さん

取材して欲しい
ことなど
みなさんの声を
聞かせてください。



詳しくは、こちらまで！